

問1 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王が贈られたことを示す重要な遺物を何という？

1. 金印 2. 銅鏡 3. 銅矛 4. 銅鐸

問2 1世紀、後漢の時代に倭の奴国の王が使節を送った際に、その権威を認めて印を授けた皇帝を何という？

1. 玄宗 2. 光武帝 3. 始皇帝 4. 武帝

問3 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？

1. 三角縁神獣鏡 2. 画文帯神獣鏡 3. 漢鏡 4. 方格規矩鏡

問4 弥生時代に作られた銅剣や銅矛などの青銅器は、主に何という儀式の道具として発展した？

1. 農耕 2. 狩猟 3. 交易 4. 祭祀

問5 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、農具や武器として実用的に使われたものを何という？

1. 鉄器 2. 石器 3. 青銅器 4. 土器

問6 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？

1. 銅剣 2. 銅鐸 3. 銅鏡 4. 銅矛

問7 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？

1. 遣唐使 2. 朝貢 3. 冊封 4. 大化の改新

問8 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？

1. 古事記 2. 魏志倭人伝 3. 後漢書 4. 日本書紀

問9 3世紀頃、邪馬台国を治め、中国の魏に使者を送ったとされる女王は誰？

1. 卑弥呼 2. 推古天皇 3. 神武天皇 4. 聖徳太子

問10 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 日本書紀 2. 古事記 3. 風土記 4. 魏志倭人伝

問11 弥生時代に大陸から伝わり、実用品ではなく主に祭祀の道具として使われた青銅器のうち、釣鐘のような形をしたものを何という？

1. 銅矛 2. 銅剣 3. 銅鐸 4. 鏡

問12 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？

1. 漁労 2. 稲作 3. 採集 4. 狩猟

問13 弥生時代において、祭礼や儀式を行うために用いられた道具のうち、銅鐸や銅鏡などを総称して何という？

1. 青銅器 2. 石器 3. 鉄器 4. 土器

問14 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？

1. 三内丸山遺跡 2. 大森貝塚 3. 登呂遺跡 4. 吉野ヶ里遺跡

問15 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？

1. 木器 2. 石器 3. 金属器 4. 土器

答え合わせ・解説

問1	答え 1 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。
問2	答え 2 光武帝	『後漢書』東夷伝によれば、57年に倭の奴国の使者が後漢の光武帝に謁見し、朝貢しました。その際、光武帝は奴国の王に対し「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けたとされています。
問3	答え 3 漢鏡	漢鏡は、中国の漢王朝で鑄造された銅鏡で、高い鑄造技術による精巧な文様が特徴です。これらは日本の首長たちにとって、自身の権威を内外に示すための貴重な贈り物や財宝として大変珍重されました。
問4	答え 4 祭祀	青銅器である銅剣や銅矛は、鋭い刃を持ちながらも実用には適さない繊細なものも多く、主に祭祀の場で神聖な道具として使われました。これらを所有したり儀式を主導したりすることが、指導者の権威を高めることにつながりました。
問5	答え 1 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問6	答え 4 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭祀の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問7	答え 2 朝貢	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。皇帝はその返礼として、称号や印などを与え、支配者としての正当性を認めました。これにより、日本側の首長は国内の勢力争いで優位に立つことができました。
問8	答え 3 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問9	答え 1 卑弥呼	卑弥呼は「鬼道」と呼ばれる呪術を用いて人々を統治した女王です。3世紀、魏に使者を派遣して高い政治的地位を認められ、有力な指導者として倭をまとめました。これは中国の歴史書『魏志倭人伝』に詳しく記されています。
問10	答え 4 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問11	答え 3 銅鐸	銅鐸は主に近畿地方を中心に多く出土しており、祭祀の道具として用いられました。当初は小型でしたが、時代が進むにつれて大型化し、表面には線刻で絵が描かれるようになるなど、集落の祭りに欠かせないシンボルとなりました。
問12	答え 2 稲作	稲作が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。木製の農具や鉄製の道具が使われるようになり、生産効率が飛躍的に高まりました。
問13	答え 1 青銅器	青銅器は主に銅鐸や銅鏡、銅剣などに鑄造され、それらが高い装飾性を持っていたことから、主に集落の祭礼や儀式、または権力者の威信を示すための道具として使われました。実用的な強度を持つ鉄器とは異なり、精神的な価値や共同体の結束を高める象徴としての役割が強かったといえます。
問14	答え 4 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。内部には多数の高床倉庫や竪穴住居、祭祀場などが復元されており、弥生時代の社会構造や生活の様子を知る上で非常に重要な遺跡です。
問15	答え 3 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦いの激化に寄与しました。